

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
(仮称)みのやま病院増築工事■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート 基本設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.9
Q1 室内環境			0.40			3.1
1 音環境		3.0	0.15	3.7	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル	病室35dB以下	3.0	0.40	5.0	0.40	
1.2 遮音		3.0	0.40	2.8	0.40	
1 開口部遮音性能	—	3.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能	—	3.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—	—	—	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	—	—	—	2.0	0.20	
1.3 吸音	—	3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境		2.6	0.35	2.6	1.00	2.6
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温	—	3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能	—	3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性	—	3.0	0.38	—	—	
2.2 湿度制御	—	1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式	—	3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境		2.7	0.25	3.3	1.00	2.8
3.1 屋光利用		4.2	0.30	4.2	0.30	
1 屋光率	共用部:5.3%、専有部:4.43%	5.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口	—	—	—	—	—	
3 屋光利用設備	—	3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策		1.0	0.30	3.0	0.30	
1 屋光制御	—	1.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度	—	3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御	—	3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境		4.4	0.25	4.5	1.00	4.4
4.1 発生源対策		5.0	0.50	5.0	0.63	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の建築材料をほぼ全面的に採用し、VOC放散量が極めて	5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気		3.0	0.30	3.6	0.38	
1 換気量	—	3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積1/10以上	—	—	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮	—	3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		5.0	0.20	—	—	
1 CO ₂ の監視	—	—	—	—	—	
2 喫煙の制御	建物内禁煙	5.0	1.00	—	—	
Q2 サステナビリティ			0.30			3.2
1 機能性		3.3	0.40	3.8	1.00	3.3
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	4.0	0.60	
1 広さ・収納性	1床室14.60㎡、4床室7.43㎡/床	—	—	4.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応	—	—	—	—	—	
3 バリアフリー計画	—	3.0	1.00	—	—	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観	天井高2.5m	—	—	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース	—	—	—	—	—	
3 内装計画	木材利用、病室はモデルルームを作成	3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理		4.0	0.30	—	—	
1 維持管理に配慮した設計	床材は維持管理が容易な部材を採用している	4.0	0.50	—	—	
2 維持管理用機能の確保	日常的に調整が必要な機器は共用部分から作業できるよう計画し	4.0	0.50	—	—	
2 耐用性・信頼性		3.2	0.30	—	—	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	—	—	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	—	3.0	0.80	—	—	
2 免震・制震・制振性能	—	3.0	0.20	—	—	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.5	0.30	—	—	
1 躯体材料の耐用年数	—	—	—	—	—	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	—	2.0	0.25	—	—	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	塩ビ床シート	5.0	0.13	—	—	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	—	3.0	0.13	—	—	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位2種類にB以上、Eは不使用	5.0	0.25	—	—	
6 主要設備機器の更新必要間隔	—	3.0	0.25	—	—	
2.4 信頼性		3.4	0.20	—	—	
1 空調・換気設備	—	3.0	0.20	—	—	
2 給排水・衛生設備	節水型便器を採用することで、上水の有効利用を考慮している	4.0	0.20	—	—	
3 電気設備	非常用発電設備、無停電電源設備を備えている	4.0	0.20	—	—	
4 機械・配管支持方法	—	3.0	0.20	—	—	
5 通信・情報設備	—	3.0	0.20	—	—	

3 対応性・更新性		3.1	0.30	3.5	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり		3.6	0.30	4.0	0.50	
1	階高のゆとり	階高3.7m	4.0	0.60	4.0	0.60
2	空間の形状・自由さ	共用部:0.48、専有部:0.16	3.0	0.40	4.0	0.40
3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		3.0	0.40		-	
1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-
2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-
3	電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-
4	通信配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-
5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-
6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-
Q3 敷外環境(敷地内)		2.5	0.30	3.0	-	2.2
1	生物環境の保全と創出	—	1.0	0.30	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	—	3.0	0.40	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮	—	2.5	0.30	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	3.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上	—	2.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性						3.8
LR1 エネルギー		5.0	0.40	5.0	-	4.5
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.78	5.0	0.20	-	5.0
2	自然エネルギー利用	トップライト	4.0	0.10	-	4.0
3	設備システムの高効率化	BEI=0.69	5.0	0.50	-	5.0
4	効率的運用	—	3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制	—	3.0	0.50	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	
4.1	モニタリング	—	-	-	-	-
4.2	運用管理体制	—	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル		3.4	0.30	3.7	-	3.7
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	自動水栓、節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用	—	3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-
2 非再生性資源の使用量削減		3.7	0.60	-	-	3.7
2.1	材料使用量の削減	—	2.0	0.10	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	再生クラッシュラン、押出法ポリスチレンフォーム、タイルカーペット	5.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	3.0	0.10	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	GL工法	5.0	0.20	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避		4.0	0.20	-	-	4.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用	安全データシート	4.0	0.30	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避	—	4.0	0.70	-	-
1	消火剤	—	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)	現場発泡ウレタンフォーム吹付	5.0	0.50	-	-
3	冷媒	—	3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境		3.9	0.30	3.9	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		LOCO2 75%	3.9	0.33	-	3.9
2 地域環境への配慮		2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止		—	3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善		—	2.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制		—	3.2	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-
2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-
3	交通負荷抑制	適切な量の駐車駐輪スペースを確保している	5.0	0.25	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制	—	2.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音	—	3.0	1.00	-	-
2	振動	—	-	-	-	-
3	悪臭	—	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制	—	-	-	-	-
3	日照阻害の抑制	—	3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明を行わない	4.0	0.70	-	-
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

(仮称)みのやま病院増築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0	○	-	○	-	-	-	○	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0		-	○	○	-	-	○	-	○	○	○	-	○	-
1.3.2 維持管理機能の確保	7.0		-	○	○	-	○	-	○	○	-	-	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-							
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	○	-	-	-	-	○						
2.4.3 電気設備	3.0	2.0	○	○	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		-	-	○	-	-	○							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	3.0		-	-	-	-	1.0	-	-	-	1.0	1.0	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	1.0	-	-	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0		-	1.0	-	-	-	-	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	1.0		-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-					
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-					
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	○	-	-	-	-							
3.1 有害物質を含まない材料の使用	1.0		-	-	-	-	-	-	-	-					
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	5.0		1.0	-	-	-	-	-	-	3.0	1.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-						
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		-	1.0	1.0	-	-	-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-						
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうちにも漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-	窓の日射熱取得率(η)	-	窓の日射熱取得率(η)	-	窓の日射熱取得率(η)	-	窓の日射熱取得率(η)	-	窓の日射熱取得率(η)	-	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m ² K)		窓システムU値	-	窓システムU値	-	窓システムU値	-	窓システムU値	-	窓システムU値	-	窓システムU値	-	窓システムU値	-
住戸部分		外皮UA値	-	外皮UA値	-	外皮UA値	-	外皮UA値	-	外皮UA値	-	外皮UA値	-	外皮UA値	-
窓光率	0.0%	窓光率	0.0%	窓光率	0.0%	窓光率	0.0%	窓光率	0.0%	窓光率	0.0%	窓光率	0.0%	窓光率	0.0%
自然換気有効開口面積率	13.3%	自然換気有効開口面積率	13.3%	自然換気有効開口面積率	13.3%	自然換気有効開口面積率	13.3%	自然換気有効開口面積率	13.3%	自然換気有効開口面積率	13.3%	自然換気有効開口面積率	13.3%	自然換気有効開口面積率	13.3%

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.5 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

執務スペース	.0m ² /人	病床	.0m ² /床	シングル	.0m ²	ツイン	.0m ²	ダブル	.0m ²
コンセント容量	0.0 VA/m ²								
天井高	2.5 m								
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%						
想定耐用年数	0 年								
想定必要間隔	15 年								
想定必要間隔	20 年								
想定必要間隔	15 年								
階高	3.7 m								
壁長さ比率	0.0%								
床荷重	- N/m ²								
外構緑化指数	#DIV/0!	建物緑化指数	0%						
空地率	0%	水平投影面積率	5%	地表面対策面積率	5%	舗装面積率	0%		
BPI/BPI _m	0.78	断熱等性能等級	等級2 相当						
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年m ²	採光を満たす教室数	80.0%	採光を満たす住戸数	80.0%				
		通風を満たす教室数	80.0%	通風を満たす住戸数	80.0%				
BPI/BPI _m	非住宅 0.69	住宅	-	太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW
雨水利用率	0.0%								
特定調達品目	-	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-				
使用比率	0.0%								
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)							
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	1						
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)							
見付面積比	#DIV/0!	隣接間隔指標Rw	0.40						
地表面対策面積率	10.0%	壁面面対策面積率	#DIV/0!	外壁面対策面積率	#DIV/0!				
見付面積S _b	m ²	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	0 m	基準高さH _b	0 m				
緑地	204m ²	水面	m ²	保水性対策面	m ²	高反射対策面	200m ²	再帰性反射対策面	m ²